

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対するオシメルチニブ耐性後の治療についての検討
研究責任者	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科 刀祢 麻里
研究機関名	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科
研究目的と意義	現在、EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者さんにおいてオシメルチニブという薬が有用であることがわかっており、多くの患者さんが投与を受けています。しかし、オシメルチニブは1年半程度内服を続けると耐性ができてしまい、治療効果がなくなってしまうことが知られています。その一方、オシメルチニブに耐性ができた後にどのような治療法が実際に使われており、効果がどのようなものであるかはまだわかっていません。そこで本研究では、オシメルチニブに耐性になった後にどのような治療が行われており、その治療効果がどうかを検討することを目的としております。
研究方法	<p>●対象となる患者さん： 2016年6月～2019年7月に進行もしくは術後再発非小細胞肺癌に対してオシメルチニブを開始した20歳以上の患者さんのうち、オシメルチニブに耐性ができてしまい、別の治療薬を使用した方</p> <p>●研究に使用する試料： (1)診療録 (2)画像診断(CT/MRI)</p> <p>●研究方法 通常診療の記録や画像検査の結果を用いて後ろ向きに調査します。オシメルチニブの後に投与を受けた治療の種類、その治療効果や有害事象を調べます。またオシメルチニブとその後の治療において、治療効果や有害事象について関連があるかも調べます。この臨床研究は、日常診療の中での治療経過を調査する研究であり、研究参加に伴う治療上の利益や不利益はありません。また参加を希望されない場合も不利益をこうむることはありません。研究結果は学会、論文で公表されます。</p>
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：刀祢 麻里 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604